令和6年度 指定管理者モニタリング報告書

施設名	加東市東条文化会館
施設所在地	加東市天神66番地
指定管理者	名称 特定非営利活動法人新しい風かとう 代表者 住所 加東市天神66番地（代表団体の住所）
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒアリング等により把握した。 次のとおり、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントした上で、モニタリングの「総合コメント」及び「今後の改善に向けた考え方」を記載した。
担当課	教育振興部生涯学習課 TEL0795-43-0545 担当者氏名 北島 恭子

1 総合コメント

<p>協定書等の基準を遵守し、適正に遂行できている。</p> <p>若手演奏家の登竜門とも言われる日本木管コンクールにおいては、フルート部門を開催し、若手演奏家71名の出場により4日間にわたる本審査を実施している。多くの関係者及び地域ボランティアの協力を得て、前回のフルート部門開催時よりも本選出場者が増加していることは評価できる。</p> <p>佐渡裕氏が芸術監督を務める「スーパーキッズオーケストラ」によるコンサートを開催することができたが、集客率が伸びなかったのは残念であった。</p> <p>自主事業では、新たに「昭和デュエット歌謡ライブ」を開催するなど、音楽イベントを中心に展開するほか、子ども向けコンサートや工作イベントを継続して開催することができた。またコロナ禍で開催を見合わせていた落語会を再開するなど、多様で多彩な舞台芸術事業の公演を企画・運営することができた。</p> <p>業務実施においては、運営ボランティアを活用しての広報活動や周辺美化に努めるなど経費削減への努力が見られる。</p> <p>事業においては舞台芸術だけでなく、子ども向け事業や市民交流事業など計画どおりに実施できていることから、「学術文化の振興を図り、魅力ある豊かな地域社会形成に寄与する」という当館の設置目的を果たすための取り組みがなされているものと評価する。</p>

2 今後の改善に向けた考え方

<p>事業計画書どおりに事業を実施できていることは評価できるが、収支が赤字となっている。</p> <p>ホール利用状況を前年度と比較すると、利用者数は年間1,951人減少し、ホール稼働率は7.2ポイント減少して28.9%となっている。施設本来の目的である学術文化の振興にとって、稼働率は当然に向上させる必要があるが、施設運営の収支にも影響することから、貸館利用の増加を図るなど、施設稼働率及び収益（利用料金・事業収入）を増加させる策を検討しなければならない。</p> <p>【参考】</p> <p>東条文化会館</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ホール稼働率</td> <td>41.5%</td> <td>27.4%</td> <td>34.6%</td> <td>30.0%</td> <td>36.1%</td> <td>28.9%</td> </tr> <tr> <td>利用者数</td> <td>11,498人</td> <td>3,013人</td> <td>3,506人</td> <td>5,583人</td> <td>12,053人</td> <td>10,102人</td> </tr> </tbody> </table>		R1	R2	R3	R4	R5	R6	ホール稼働率	41.5%	27.4%	34.6%	30.0%	36.1%	28.9%	利用者数	11,498人	3,013人	3,506人	5,583人	12,053人	10,102人
	R1	R2	R3	R4	R5	R6															
ホール稼働率	41.5%	27.4%	34.6%	30.0%	36.1%	28.9%															
利用者数	11,498人	3,013人	3,506人	5,583人	12,053人	10,102人															

3 業務の履行状況について

令和6年度から指定管理者が「新しい風かとう」のみの体制となったが、協定書等において定めた業務はおおむね達成できている。

予定していた事業やホール、リハーサル室の貸館については適切に運営できている。

4 サービスの質について

コスミックホールの特色、響きを活かし、音楽を中心にしながらも、多様で多彩な舞台芸術事業の公演を企画するよう努力されており、評価できる。

アンケート調査はすべてのイベントで実施しており、各項目をグラフ化して分析を行うとともに個別意見を整理して、次年度以降の事業展開に反映しようとしていることは大変評価できる。

今後については、引き続き来場者ニーズ等を把握するため、アンケート回収率を高められるように工夫するとともに、施設利用案内や手続きに関する事項も調査することで、それらを反映したサービス向上の取組が実施されることを期待したい。

5 収支状況等について

光熱費や人件費等の高騰が影響する中で、寄付金の獲得に努めるとともに、運営ボランティア活用による経費削減などに取り組んでいるものの、2年連続で最終決算が赤字となっている。収支改善策として、利用料金及び事業収入の増加策を検討する必要がある。利用料金収入ではホールやリハーサル室の稼働率向上のための取組が必要であり、事業収入では魅力のある公演実施とそれらに見合ったチケット価格の設定が重要であると考えます。

併せて、ホームページやInstagramを含めたSNS戦略と、広報誌やポスター、チラシ配布による周知など、さらなるイベント広報に注力いただきたい。